健康かわら版 NO.37

～保健師だより～

平成31年度
4月22日発行

北海道教育庁教育職員局福利課

風疹から自分自身と周りの大切な人を守りましょう！

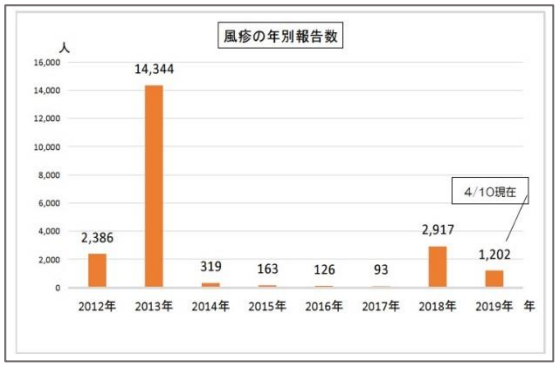
風疹とは？

風疹は風疹ウィルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症で、感染経路は飛沫感染です。感染後、14～21日(平均16～18日)の潜伏期間の後、発熱、発疹、リンパ節腫脹が出現しますが、発熱は風疹患者の約半数程度です。また、不顕性感染(感染しても症状が見られない場合)が15～30%程度存在します。ウィルスの排泄期間は、発疹出現の前後約1週間で、熱が下がると排出されるウィルスは激減し、感染力は急速に消失します。通常、自然に治ることが多い経過の良い感染症ですが、まれに、血小板減少性紫斑病や急性脳炎等を合併することがあります。また、大人では、関節痛の出現や、高熱・咳が長引き、重症化する場合があります。風疹に伴う最大の問題は、妊婦が感染することにより先天性風疹症候群(CRS)が出現することです。

なぜ今、風疹対策なのか？

風疹は、2012年～2013年の流行以降、減少傾向だったが、2018年から急増し、2019年当初より2018年を上回る発生が報告されています。(下図)報告患者の94%が成人で、男性が女性の3.6倍で、特に30～40代が男性全体の60%を占めています。女性は妊娠出産年齢の20～30代に多く、女性全体の66%を占めています。推定感染源は記載があった者では、男性が「職場」が一番多く、次いで「家族」「旅行・出張」と続く。女性は「家族」が一番多く、次いで「職場」となっています。

また、2013年の流行の影響を受け、40人以上の先天性風疹症群(CRS)の患者が報告されました。以後、発生報告はなかったが、2019年1月に報告があり風疹の感染拡大防止とそれによる先天性風疹症候群(CRS)の発生を防ぐことが重要となっています。



なぜ大人の風疹が多い？

風疹の流行は、風疹に感染する機会があったかどうかと予防接種を受けたことがあるかどうかが関係しています。日本における風疹の予防接種は、昭和52年8月に「中学生の女子」を対象とした学校での集団接種でスタートしましたが，これまで何度か制度改正があり、風疹の免疫が不十分な年代が生じています。

2019年の報告者のうち、「予防接種歴なし」と「不明」で92%を占めています。接種歴あり(8%)も、確実に確認できたのは、13.6%でした。

〈風疹予防接種制度と出生年月日の関係〉

生年月日	定期接種状況
昭和37年4月1日以前	男女とも接種なし
昭和37年4月2日～昭和54年4月1日	男性:接種なし 女性:1回接種あり(中学生の時に学校で集団接種) →接種率高い
昭和54年4月2日～昭和62年10月1日	1回接種あり (中学生の時に個別接種)→接種率低い
昭和62年10月2日～平成2年4月1日	1回接種あり (幼児期に個別接種)→接種率低い
平成2年4月2日以降	2回接種の機会あり

先天性風疹症候群(CRS)とは？

免疫のない女性が妊娠初期に風疹に罹患すると、風疹ウィルスが胎児に感染して出生児に先天性風疹症候群(CRS)と総称される障害を引き起こすことがあります。妊娠月別のCRS発症頻度は、妊娠1ヶ月で50%以上、妊娠2ヶ月で35%、3ヶ月で18%、4ヶ月で8%程度です。母親が不顕性感染の場合でもCRSは発生します。

風疹のサーベランス(動向調査)やワクチン接種は、CRSの予防を第一の目的に考えられています。

〈先天性風疹症候群の主な症状〉

風疹を予防するためには？

風疹はワクチンによって予防できる疾患です。自分が予防接種を受けているかどうかを接種の記録(母子手帳等の確認)や、抗体検査を受けて確認することができます。

今年度から「風疹に関する追加的対策」が実施され、抗体保有率が低い男性に対する抗体検査・予防接種が実施されます。追加対策の対象者は1962年(昭和37年)4月2日から1979年(昭和54年)4月1日までの間に生まれた男性で、今年度は1972年(昭和47年)4月2日～1979年(昭和54年)4月1日までに生まれた男性が対象となります。

*実施方法の詳細については検討中です。

出典：厚生労働省ホームページ、総務省ホームページ、
国立感染症研究所ホームページ

健康支援グループ
電話：011-231-4111(内線：35-380)